

◎ ITCアエロスペース、ソカタTBM850プレゼン会議を開催

アイ・ティー・シー・アエロスペース(中山智夫社長)は3月3日から5日の3日間、同社が販売代理店である仏国ソカタ社製の高性能単発ビジネス機ソカタ TBM850 に関するプレゼンテーションを開催した。

TBM シリーズは、強力かつ信頼性の高いターボプロップ・エンジン P&WC の PT6A-66D (最大出力 1,825shp) を 850shp に減格使用して、双発の小型ビジネスジェット機に匹敵する飛行性能を実現している 4~6 人乗りのプロペラ単発ビジネス機であり、TBM850 は、その最新型である。TBM850 の飛行性能は、最大巡航速度 592 km/h、航続距離は最大 2,600 km に及び、運用限界高度 9,448m まで 20 分という上昇性能



米国の自家用機市場で人気の高いソカタ TBM850

は、小型双発ビジネスジェットに匹敵する。さらに最新アビオニクスของ ガーミン G1000 を標準装備しており、エアライン機並みの計器飛行能力を有している。その一方で、リバーズ・ピッチ機構を持つ本機の離着陸性能は、軽荷状態であれば 800m 滑走路でも発着可能で、調布空港や沖縄、九州、北海道の離島の飛行場でも運用することができる。また標準で 4 席のキャビンは与圧されており、後部の貨物スペースにはギャレイやトイレも設置できる他、急患搬送用のレイアウトも用意されている。経済性についても燃料消費量は小型双発ビジネスジェット機より少なく、直接運航経費や機体保険料も安くなる。TBM シリーズは 2013 年 1 月時点で累計 648 機が納入され、2008 年から生産されている G1000 搭載の TBM850 だけで 237 機に達している。その 9 割以上が法人および個人所有で、特に北米で人気が高い。

今回のプレゼンで中山社長は、日本での普及に備えて認定サービスセンターを開設することにしており、ジャプコン(岡南)に加えてヒラタ学園(神戸)、アルファアビエーション(福島)、SGC 佐賀航空(佐賀)の 4 社が名乗りを上げていることを明らかにした。またソカタ社では新規の機体に関しては、1,000 飛行時間ないし 5 年間(いずれか早い方)の不具合については、メーカーが全額費用負担するプログラムを用意していると発表。機体オーナーは年に一度の耐空検査以外には、費用が発生しないことになり、画期的なカスタマー・フレンドリーなサービスプログラムである。さらに ITC からは、日本への機体導入がし易いように 3 年から 7 年のファイナンス、及びリース、更に共同所有方式につき説明があった。

詳細は、ITC アエロスペース(03-3555-3621 中山(智)または長野)へ問合せのこと。